理窓教育会報

第27号
平成１８年3月４日

東京理科大学理窓教育会　　事務局　東京理科大学理窓会館４階

『国語教育が危ない』

東京理科大学理窓教育会
会長（36 修化） 酒 井　　淬

平成 17 年度も総まとめの学年末を迎え、会員の皆様には、各分野でのご活躍頼もしい限りです。

当会は、東京理科大学理窓教育会と改め、全国を 11 地区に分割する等規約を改訂し、活性化プロジェクトも発足いたしました。

社会の急激な変化に即座に対応することも大切ですが、原点に戻って、『同窓の資質の向上・相互の親睦・大学への協力』についての本会の主旨目的が実現することを重視し、役員をはじめ皆様の協力を得て運営しております。

ところで、教育現場に目を移しますと、課題が山積しております。

ベネッセ教育研究開発センターは昨年 6 月から 7 月にかけて、都内の公立中学生 2,335 人を対象に、勉強時間や国語に対する意識が漢字の習得にどのような影響を及ぼすのかを調べた『中学生の国語の学習に関する調査』の結果をまとめました。

それによると、中学生の約８割が『国語の勉強の仕方が分からない』と悩んでいます。また、漢字テストの結果では、保護者や教員から本を読むように勧められたことのある生徒は漢字テストの成績がいいことが分かりました。

『国・社・数・理・英５教科の勉強についての考え方』の中で、『勉強したことが役立つ教科』では、国語が 29.3 %で、英語の 35.0 %に次いで二位、『頑張って勉強したい教科』、『勉強が楽しい教科』、『得意な教科』、『苦手な教科』では、いずれも１割台で５教科の中で最下位でした。

国語は、勉強すれば役立つものの、身近すぎて、特に楽しくも、苦手でも、得意とも、頑張らなければとも感じていないのが実状ではないでしょうか。しかし、ほとんどの教科が国語で教えているのが現実であり、各教科とも国語科との密接な連携を取って指導にあたる必要があります。

国立教育政策研究所の『2003 年度高等学校教育課程実施状況調査報告書』、『日本史』の結果、原始・古代から現代史までの通史を学習する『日本史Ｂ』を受けた生徒のうち、『日本史を勉強すれば、私の普段の生活や社会生活の中で役立つ』という問に、『そう思わない』と『どちらかと言えばそう思わない』と答えた生徒の割合は 57.2 %に上がっており、日本史を学習することに意義を見いだせない生徒が過半数を占めていることがわかりました。

また、旧学習指導要領に示された内容のうち、調査時点（11 月末）までに『第二次世界大戦と日本』を指導した教員の割合は 50.8 %『現代の世界と日本』は 26.7 %にとどまっており、授業の在り方に大きな問題を抱えていることが浮き彫りになりました。

以上、中学校の国語、高等学校の日本史にしても、私ども日本人の基盤となっている教科であり、今後は、特に世界の中の日本人であることを念頭に置いて、日本文化を知り、異文化理解をできる視野の広い、未来を展望できる人材育成が求められています。

平成十七年度　総会報告･全国支部長報告

青森県支部総会報告

支部長（33 理数）澤田静

東京理科大学理窓教育会青森支部総会は、平成 17 年 10 月 1 日(土)弘前プリンスホテルで理窓会青森支部総会に先立って会員 12 名が出席して開催されました。東京理科大学理窓教育会規約を全員に配布し、理窓会の関連組織となり、名称も理窓教育会となったこと、教育に関する大学の諸施策に協力していくことなどについて説明がありました。話題の中に教育会は管理職の会なのではないかということもありました。確かに本部の総会は全国高校長会議の期日に合わせて開催されているので、それも一つの原因であろうと思います。本県だけでなく他県でも現・元管理職の方々の出席が多いように思います。規約の 4 条に本会の会員は、教職関係者の同窓、および、本会の目的に賛同する同窓とするとありますように教職関係以外の方々にも会員となるよう働きかけていく必要があると思っています。また、懇親会の席では、日頃教育について考えていること、グループで研究されていること,趣味のことなどについて発表の場をもうけてはという意見があり、教養を高めるのによい機会と考えています。

本県の場合、理窓会青森県支部総会の会場は県内を青森、弘前、八戸の三地区に分けて毎年持ち回りで開催しているので、教育会も同期日に行われることになります。

理窓教育会岩手支部総会

会長（42 理数）石川明彦

平成１７年１１月１２日（土）１０時、ホテルエース盛岡（盛岡市中央通 2-11-35）で、理窓教育会岩手支部総会を開催致しました。本部から　奥原千里理窓教育会理事、塚本恒世理事長のお二人にお越し頂きました。総会議事として、決算報告、活動計画の他に会費徴収方法の変更が提案され了承されました。

今回の研究発表、情報交換は下記のように３件ありました。

１件目は、「新学習指導要領１期生の受験と岩手県進学模試」及川研一先生（一関第一高等学校）の発表で、新学習指導要領のもとで勉強してきた生徒たちと進学模擬試験を話題に話をして頂きました。

及川先生は現在岩手県の進学模擬試験事務局長の役を兼任しておられ、多々苦労話が聴けました。２件目は、「軽米地域中高一貫教育の現状と課題」福士猛夫先生（軽米高等学校）の発表で、中高一貫教育のメリット、デメリットを中心に現状を紹介して頂きました。この先自己評価として客観的に数字で報告する難問を控えていると頭をかかえておられました。３件目は、「『生物のつながり』の一指導方法」百々正博先生（一関市立弥栄中学校）の発表で、捕食者キツネと獲物ウサギの関係を、生徒にそれぞれ擬似体験させた授業の報告でした。生徒達の捕食者としての苦労、工夫の進化、一方の獲物側の逃れ方の学習状況等興味深いお話でした。

最後に次回の発表報告者の相談をして閉会しました。（本年の参加者は１５名）

秋田県支部総会の概要の報告

支部長（45理数）佐藤幹彦

[編集部より]以下の記事は、昨年度の報告です。充実した内容で、われわれに参考となる面が大きいと考えられるので、今号に掲載いたしました。

平成16年11月27日、秋田市の千秋会館にて。瞬間最大風速38メートルの暴風を記録した日でしたが出席者は21名でした。

理窓会秋田支部総会に引き続いての教育会秋田支部総会でした。

会務報告と会計報告の後、支部活動の重点について協議した。活動の重点は次のとおりでるが来年度は活動をより充実させたいと考えている。

1. 会員の増加に努める。(本部への会費納入会員は20名である。)
2. 秋田県の教員採用状況についての情報提供と採用試験受験者への指導援助。
3. 会員相互の親睦。

議事終了のあと「東京理科大学の再構築と理窓会の現状について」と題して塚本理事長及び並木常任幹事から講話をいただいた。パンフレットやスライドを用いて、ていねいな説明をしていただき、発展を続ける母校の現状及

び125周年記念事業等について理解を深めた。来秋いただいた両氏に感謝申し上げます。

最後に、恒例となっている支部会員を講師に招いての講演会を行った。今年度の演題は「考えることを育てる理工教育～総合学としての建築教育における模索」講師は秋田県立大学システム科学技術学部助教授博士(人間科学)込山敦司氏にお願いした。

専門は「居住学」である。千葉県出身であるが、雪国秋田で生活をして3年経ったとのことである。

専門の建築学の紹介、考える力を鍛えることやイメージカを育てるために数学と物理(理科)が必要かつ有効であるということ、そのためにはICチップの顕微鏡写真など美しいものを見せて「美しさ」を子供たちに伝えることが必要だということ、そして最後に教育現場では基礎的教育とおもしろさ(イメージ化)の両立を図ってほしいということでまとめられた。本会のために快くお引き受けいただいた込山氏に感謝申し上げ本支部総会の報告といたします。

茨城県総会報告

茨城支部長（37 理物）坂入　靖男

理窓会茨城支部総会の本年度の参加者は、37 名中教職関係者が 21 名でした。今回は教育会の総会も兼ねることにしました。

（例年ですと理窓会とは別の期日に教育会総会を開催しています）

理窓会茨城支部総会の報告と併せて報告します。

期日　平成 18 年９月 11 日（日）
会場　筑波温泉ホテル
来賓　常務理事　　幡野　純　様
　　常任幹事　　並木　栄一様
　　維持会会長　森野　義男様

幡野先生からは、大学の現状と未来像についての神楽坂・野田キャンバスの再構築や各部門の研究センターと付属施設の充実等具体的なお話があり、並木先生からは、これからの理窓会の在り方に関連して改革に向けての取り組みと周年記念募金の説明がありました。森野様からは、ご自分の貴重な体験を通しての「募金」についての考え方をお話して頂きました。

総会では、特に平田増三支部長より周年記念募金についての協力要請がありました。

懇親会は、参加者全員のスピーチがあり、終始和やかなひとときを過ごすことができました。

さらに、今回の目玉の『温泉三昧コース』と『筑波山山頂散策コース』別に分かれて会員同士の交流・親睦がより深めることができました。　.

教育会関係では、この度「理窓会」の下部組織に組み入れられ『理窓教育会』と名称が変更されました。理窓会と大学側のバックアップが得られるようになりました。そこで、理窓教育会会報第 25 号と第 26 号を参加者全員に配布し、総会では現状を報告し、理解と協力をお願いしました。

尚、次年度は茨城県理窓教育会会則の改正と役員の改選を予定しています。

栃木県支部報告

代表（46理化）　真島　仁

表題に「総会」の文字が欠けているのは間違いではありません。本県には永く支部活動がなく、組織もないからです。いうまでもなく支部長もおりません。

数年前、縁あって本県の教職に就いている理科大卒業生の「まとめ役」らしき役割が私に廻ってきました。正直なところ、困ったなという気持ちで多少の文書綴りを受け取りました。文書のほとんどは、本部から送られてきた会報や案内で、なにをすればよいのか、どこから手を付ければよいのか思案するばかりでした。

かつて本県も活発に活動していた時期がありました。当時、まとめ役として尽力されていたのは、私自身も大変お世話になった菅原栄蔵先生でした。しかしながら、菅原先生が退職された後は日々活動も停滞しいつしか消滅してしまいました。相談する人もなく１年が過ぎたある日、高校に勤務する同窓生から突然の電話をいただきました。まだ若い女性で、話しの趣旨は同窓生が集う場が欲しいというものでした。それが「やるしかないか」と思った切っ掛けでした。

在職する県立学校の教員に絞って名簿づくりから始めました。５２名の所在を突き止め、どうにか２４名の参加を得て懇親会を持つことができました。昨年の７月、本県には珍しい台風の真っ直中でした。本県及び本部の理窓教育会の現状を話し、年一回の懇親会を持つことが決まりました。　次のステ

ップは、ＯＢにも声を掛けることだと考えております。できることなら、この会報を読まれたＯＢ方々には声を掛けていただければ有り難いと思っております。大学を卒業して３０数年間、同窓生として何一つ後輩のためにしてやれなかった私の罪滅ぼしの心境であります。

群馬県支部総会報告

支部長（44 理数）林　陽二

群馬支部では、平成１７年度支部総会を昨年の１２月３日（土）に開催しました。この時期に、理窓会支部総会、理窓教育会支部総会と共に懇親会を兼ねて行うのが恒例になっていますが、今年度も、例年どおり前橋市内の会場にて、２１名の会員の参加を得て盛会のうちに行われました。理窓会本部からは、常任理事の山田義幸様に御出席をいただきました。この欄をお借りしてお礼申し上げます。

ここ何年かは、参加者が２０名台にとどまり、大変寂しい思いをしております。なるべく多くの同窓生に参加してほしいと、呼びかけてますが、参加者増には至っておりません。それでも、年に一度のこの総会を大変楽しみにしているという先輩方も多く、大変心強く思っています。

千葉県支部総会報告

主催者理窓会千葉支部長　安藤　治夫
理窓教育会千葉県支部
支部長（45 理数）　大竹好文
報告者（63 理数）藤崎　俊浩

平成 17 年 8 月 20 日（土）
13 時 40 分～
千葉市ポートプラザちば　58 名

【総会Ⅰ】（教職員部会）大竹好文会長(佐倉西高校長)が議長を務め、出された議案はすべて承認されました。その中で、教職員関係の団体の名称を千葉支部教職員部会と決定しました。

【総会Ⅱ】（千葉支部総会）来賓の塚本桓世理事長兼理窓会会長、池北雅彦常任幹事、並木榮一常任幹事、栗原義昭神奈川支部長、関根功東京支部副支部長、奥原千里常任幹事、山田義幸埼玉支部副支部長をはじめ大学側からも多数の先生方にご出席いただきました。

塚本理事長からはプロジェターを利用し「東京理科大学を取り巻く状況の変化と改革」「理窓会５カ年計画（理窓会ルネサンス）」について 20 分程度のお話がありました。大学の取り組みがとてもよく分かりました。

【記念講演会】今年の講師は、東京理科大学工学部助教授の小林宏氏（H2 工・機）にお願いしました。「人間生活を支援する実用的なロボットシステムの開発」という演題で、約90分の非常に興味深いご講演でした。

【懇親会】総会に参加していただいた方々はほとんど出席という状況で、来賓の方々にご挨拶をいただき、終始和やかな雰囲気で会は進みました。非常に親睦が深まった有意義な２時間であったと思います。

教職員部会と企業人部会という新たな一歩を踏み出した理窓会千葉支部。この会がさらなる進化を遂げ、来年度も多数の出席者による充実した総会が実施できるよう、事務局でも活動していきたいと考えております。

神奈川支部総会報告

神奈川支部長(41 理物)　鈴木　宏司

本県における理窓教育会神奈川支部総会は、理窓会神奈川支部総会と兼ねて、毎年 7 月に行っている。この支部総会は、神奈川県を 7 つの地区（それぞれの地区に幹事長と数名の幹事がいる）に分けて、その地区が輪番で総会を担当するというユニークな方法で行っている。

今年度は、横須賀・三浦地区がその任に当たり、

平成 17 年 7 月 23 日に横須賀プリンスホテルにて開催された。総会に先立って研修会が行われ、東海大学総合科学研究所教授　佐々木政子氏（36 Ｋ）に講師をお願いし、講演会を実施した。テーマは「知って得する　太陽紫外線の話」というもので、大変有意義で面白く、考えさせられるところの多い内容で、会員一同熱心にお話を伺った。

続いて総会に入り、栗原理窓会神奈川支部長より、創立 125 周年事業、理窓会会費納入者及び神奈川支部総会参加者の拡充などを中心に、大学の様子、理窓会本部の動向等について話があった。その後議事に入り、会計報告等の所定の案件が滞りなく承認され無事に総会を終了した。

総会の後、懇親会に入り、塚本東京理科大学理事長、池田理窓会顧問、並木理窓会常任幹事、森野理窓会維持会

会長を交え、総勢 60 余名の参加を得て、和気あいあいとした雰囲気の中、盛大に行われた。

次に、賀詞交歓会は平成 18 年 2 月 11 日行われた。今年も、「みなと未来 21」の景観が一望できる日産横浜ビル 21 階のホールを会場とし、来賓として大学から澤東京理科大学常務理事、理窓会本部から並木常任幹事及び森野維持会会長のご出席をいただき、会員 56 名の参加のもと楽しいひとときを過ごした。また、当日、賀詞交歓会の前に理窓会神奈川支部幹事会を開き、支部の活性化に向けて大胆且つ積極的な取り組みをしていくことを確認した。当然、教育会も歩調を合わせて取り組んでいくことになる。　　以上

山梨県支部総会報告

支部長（38 理数）小澤　杉男
事務局（53 理物）橘田多喜夫

山梨県支部総会は、例年理窓会山梨県支部総会と合同で開催しており、本年度は平成１７年１０月１日（土）１６時から甲府市「ニュー芙蓉」で、１７人の参加のもとに開催された。

来賓として、本部から常任幹事田村應和先生、地理的に近い諏訪東京理科大学から西山勝廣教授をお迎えした。田村先生からは、大学の現況と将来像、理窓会５ヶ年計画「理窓会ルネサンス」等のお話をうかがうことができた。また、西山先生には、諏訪東京理科大学の教育活動や、卒業生の進路等をお話しいただき、大学の発展の様子を知ることができた。

懇親会では、参加者一人一人の近況報告があり、特に現職教員からは各校の様子などを聞くことができ、充実した時間を過ごした。

理窓会・教育会両支部の課題として、支部発展のために来年度は新たな出席会員を増やそうという意見が出され、今後、努力していくことが確認された。平成１２年度には、同窓生の活躍を知り、支部会員の研修を目的に、現役高校教員で薬学博士号を取得された齋藤雅樹先生の講演会を開催したが、今後もこういった県内で活躍する同窓教員の講演等を企画して、特に若い先生方の支部会への参加を呼びかけたいと考えている。

同窓の若い先生方で、この会の存在を知らない方も多いので、広報活動に力を入れ、小・中・高教員の情報交換や研修会を計画し、活動を展開することが今後の課題である。

本県では、平成１９年度高校入試から入試制度が大きく変わり、一層の特色ある学校運営が各学校に求められるので、本支部会を通して、経験豊富な諸先輩からの有意義なご意見をうかがい、ご指導を賜りたいと願っている。

なお、長年支部長として本支部の運営・発展にご尽力された小澤杉男先生が退任され、平成１８年度からは、渡辺明先生が新支部長に就任する。

静岡県支部総会報告

支部長（43 理化）　恩田　征弥

当支部は平成５年に発足し、現在は３１名の会員で活動しています。定年退職後も各界各所で現役続投の会員が１４名、定年前現役では校長・教頭１１名、教諭３名、教育行政３名となっています。本年度の支部総会は、１２月３日（土）静岡市にて、会員２０名の参加のもとに開催しました。

〇遠藤宏理窓会静岡支部長講話

理窓会の現況について、正会員は会員１５万人のうち約６千人に過ぎないことから入会率の向上策を検討していること、今後理窓会として講演・イベントの企画を活発にすること、理大１２５周年記念事業への取組みなど、話材多い講話をいただいた。

〇支部長報告

本部作成の「教育会報」、同窓会誌「理窓」、「科学フォーラム」記事などの資料を紹介し報告した。

《都道府県別同窓教員数》

「理窓‘０５・４号」に概数として一覧に示されている本県の数は６５名。１０年ほど前に公立学校については全県の教員数を把握したことがあったが、現在は個人情報保護のこともあって調査が難しい状況となっている。

《母校の社会的評価》

高校、企業、メディアからの評価が大学ランキングとして掲載されている。総合では、１０位から２０位前後を推移している。母校の評価が高いことは同窓として喜ばしいことである。大学本部の諸施策に対する支部としての支援、例えば会員拡大への努力等、そして何より在校生の活躍を期待したい。

総会後は、盃を重ねながら会員各自から近況報告があり絆を深めることができました。今後とも、絆を大事にして確かな歩みを刻んでいきます。

鳥取県支部総会報告

支部長　（45 理数）髙橋　譲

鳥取県支部総会は平成 17 年 7 月 24 日（日）、米子市内の喫茶店で、現職高等学校教員 6 名で実施しました。各高等学校の現状についての情報交換と県内同窓教員の動向をまず話し合って協議。中でも、若手教員の参加意識の低さや、県教委事務局に在職する同窓教員などに積極的に関わって頂くように強く働きかける、現在、講師として勤務する若干の同窓教員について、個人的な情報でなく、支部として連絡をとる、といった意見、等々、それぞれの思いを語り合い、今後に向けた活動の展開を申し合わせました。

鳥取県の教育会支部は、従来、理窓会鳥取県支部に付随する形で高等学校教員間の連携をはかってきました。以前は山口東京理科大学の学生募集にも参画させて頂いておりましたが、最近はそのような場面もなくなりました。山口の募集に関連して、全ての同窓高等学校教員と電話等で近況を伺うことができておりましたが、電話の機会もなくなり、状況がわからない先生もあるようになりました。そういった中で、今後、鳥取県支部は独自に組織化をはかる必要があると思っています。

平成 17 年度最大の出来事は、武信弘先生（21 理化）のご逝去でした。武信先生は昭和 40 年代から 50 年代にかけて、鳥取県教委人事第一係長、指導課長、県立由良英高等学校長、他を歴任され、また、同窓会幹事として、鳥取県同窓を指導して頂き、私達の精神的な支えでありました。10 年近く前から病床にあって入退院を繰り返していらしゃいましたが、ついにみまかられました。鳥取県支部の大きな柱を失って茫然自失の状態であります。

今後、鳥取県支部の体制を立て直すのにしばしの時間を要するものと思っています。

どうか、理窓教育会本部から益々のご支援をお願いする次第であるます。

福岡県支部総会報告

支部長　（32 理物）西嶋 進一

本会は 17 年度の定期総会で規約が改定され名実ともに理窓会の組織の一員としての存在が明らかになり,理窓会会員であれば誰でも会員になれること,又,母校 125 周年記念活動に本会は協力するとのことで,当支部総会も理窓会と教育会の合同支部総会として行った。特に本年度異動で高校教員が管理職に昇格されたので 4 地区のリーダーの担当を願い目標の具体的取り組①記念支部総会の参加数の確保②正会員の現在数の維持③募金目標数の達成に次年度に向けて推進願っています。

次に企業人会も年度末までに役員の選出を願い具体的取り組に従事されることの承認を得ました。従って 18 年度は理窓会,教育会,企業人会の各支部のそれぞれの役員が中心になっての実行が期待されます。併し当年度予定の理窓会名簿発行は個情報保護の為中止とのことで、従来通りの方法では不可能とのこと苦慮するところです。一方支部としてのネット・ワークで多彩な情報発信のステーションになりホームページは全国の支部の 43%の開設展開されているとのこと,当支部としても流れに遅れないよう努力中です。今後素晴しいコミュニテイの再構築に協力しなければと思っています。

平成 5 年から支部長を 13 年間続け長すぎたかなーと思い早く後輩に道をゆずるべきと考えつつも 3 月に九州地区副会長に推薦を受けて当惑していますが,新たな取り組として九州地区支部長会を全国に先駆けて 6 月 5 日(日)に熊本市の交通センターで本部役員を含め計 10 名で,規約改定に従いその目的を達成するために行いました。18 年度は鹿児島市で行う予定です。今後は本部と地区のバイプ役として活動すべきと考え種々な困難を乗り越え前進するのみと念じつつ終わりの言葉と致します。

H18-2-20 記

同窓の活躍

全国新聞教育研究協議会について

同**協議会会長（47理物）鈴木　伸男**
(東京・町田市立町田第二中学校長)

本研究会(略称は全新研)は、戦後のGHQの民主化政策の一つとして新聞教育を重視したなかで、20代の若い教師が

新聞づくりに取り組み、実践を積み上げる中で、昭和33年に組織化されました。この年には、第1回全国新聞教育研究大会・東京大会が開催されました。

本研究会は、協議会となっていますが東京、大阪などの各地区で誕生した新聞研究会を1つ.につなげる形で作り、れ協議会としました。教科のように各都道府県に組織があるわけではなく、全国の半分程度しかありません。財政的にも地区分担金といくつかの新聞社、財団等の援助に支えられているような状況です。

主な活動・事業としては、次のようなものがあげられます。

３大事業・活動

①　全国新聞教育研究大会の開催全新研と地区組織とが共同主催で、例年8月の上旬に行われます。

平成17年度は8月2日(火)・3日(水)に北海道十勝・帯広大会を帯広市で開催し、400名を超える参加者がありました。

平成18年度は、8月3日(木)・4日(金)に神奈川・秦野大会を神奈川県秦野市で開催予定です。

平成19年度は、第50回の記念大会で、8月3日(金)・4日(土)に東京大会を東京都葛飾区で開催を予定しおり、その準備にはいっています。

例年、基調提案、記念講演、実践発表、研究授業、模擬授業、実習教室などが行われます。

次の新聞コンクールでもいえることですがPTA広報の部があり、全新研は、PTAまで巻き込んだ珍しい研究・実践の団体です。

②　全国小・中学校・PTA新聞コンクールの実施

毎日新聞社・毎日小学生新聞・毎日中学生新聞、全国新聞教育研究協議会が主催で、今年度で55回を数えます。

部門は小学校学級新聞の部、小学校・学校新聞の部、中学校・学級新聞の部、中学校・学校新聞の部、PTA新聞の部、小学校・学習新聞の部、中学校・学習新聞の部の7部門に分かれており、小学校・学校新聞の部、中学校・学校新聞の部には、内閣総理大臣賞および文部科学大臣奨励賞が贈られますがこの賞が贈られる数少ないコンクールの1つで、たいへん伝統があります。

③　百号・二百号表彰

学校新聞、PTA広報(新聞)で、百号・二百号に達したところを毎年全国新聞教育大会の開会式の中で表彰していますが昭和38年度から実施し、平成17年度で、43回を数えています。

本研究会では、①～③を三大事業・活動として位置づけています。

その他の活動

④　朝日・新聞スクラップコンクール

全国新聞教育教育研究協議会・朝日新聞社・朝日学生新聞社が主催。

平成17年度で12回を数えます。

⑤　育て!プリントコミュニケーションコンクール

主催は理想教育財団で、本研究会が後援しています。

⑥　下水道いろいろコンクール

主催は日本下水道協会・日本水道新聞社で、国土交通省・環境省が後援、本研究会が協賛しています。

以上はどちらかというとイベントですが新聞教育そのものも活動としては、新聞活用・スクラップ講習セミナーを朝日新聞社・朝日学生新聞社と主催していますし、理想教育財団の支援のもとに新聞づくり指導者講習会を全国各地で開催(年3回)しています。

新聞教育とその現状

さて、新聞教育の中味は、大きく「新聞活動」と「新聞学習」とに分けられます。「新聞活動」は、生徒自身による新聞づくりや新聞制作に伴う教育活動で、学校・学年・学級新聞活動、教科でつくる新聞づくり、行事の取り組み・まとめの新聞づくり、合評会などが考えられます。

一方、「新聞学習」は、ふつうの新聞を授業等の教育活動に生かしたり、新聞の働き等を学ばせることで、「新聞利用学習j(新聞を教材等に使う)と「新聞理解学習」(新聞のもつ機能、特性を学ぶ)の2つがあります。狭義には、「新聞利用学習」をNIEと呼ぶことが多いですが、広義には、「新聞理解学習」までを含めることができるでしょう。

全新研では、「新聞活動」と「新聞学習」の2つは、共通の部分をもっと共に、互いに補うものであり、新聞教育を支える両輪の輪として捉えています。

新聞を教材として、打ち上げ花火的に使うことだけを行っている人達もいますが、我々は、づくりと利用を一つにして行っています。

大学との連携

理窓教育会総務理事（24理数）**笹沼亀治**

昨年度の理窓教育会総会にて、新規約が承認され、施行致しましたが、その中で、「大学の諸施策に協力事業」があります。その一環として、創立 125 周年記念事業への協力については、母校への募金活動があり、皆様の協力を得、活動しているところであります。

募金以外の下記の協力についは、理事会で「活性化プロジェクト委員会」を立ち上げて取り組んでおります。

①　推薦入学者入学前学習支援

酒井　滓会長が塚本桓世理事長との会談の際、標記協力の用意があることを表明しました。現在、大学の推薦入学実施委員会で、案が検討されております。

②　学生募集への協力体勢の構築

昨年度の理窓教育会総会にて、福岡、鳥取、京都などの支部から、標記に関する、提案、意見が述べられました。

また、塚本桓世理事長からも、非公式ではありますが、大学・理窓教育会との連携の意向が伝えられました。そこで、酒井会長が塚本桓世理事長と、３月初旬に会談することになっています。今後の経緯につきましては、５月の総会において、ご報告させて頂きます。

事務局について（お願い）

理窓教育会総務理事（24理数）**笹沼亀治**

理窓教育会事務局を下記の理窓会事務室に同居させていただいております。しかし、常駐事務担当者、教育会専用の電話、ＦＡＸは財政上、置けない状況です。

会員のみなさまには甚だご不便をおかけいたしますが、当面、郵送による書面でのご連絡をお願いいたします。

〒162-0825東京都新宿区神楽坂
２-１３-１
理窓会館四階教育会事務局宛
急ぎの連絡（メール通信）
msitou@rs.kagu.tus.ac.jp
（総務理事　伊藤　操）

平成１８年度　教員採用試験合格者数

平成１８年2月２４日現在

校種	公立中学校		公立高等学校				公立計	私立中・高等学校				私立計	公私合計
教科	数学	理科	数学	物理	化学	技術		数学	物理	化学	生物		
岩手	1						1					0	1
千葉	3						3	1				1	4
群馬			1	1			2					0	2
茨城			2				2					0	2
埼玉	1						1	3				3	4
さいたま市	1						1					0	1
東京	17	4					21	6	3	1		10	31
神奈川			1	1			2	1		1		2	4
横浜市						1	1					0	1
川崎市	1						1					0	1
新潟	1						1					0	1
愛知	1						1					0	1
三重							0	1				1	1
広島							0	1				1	1
岡山			1				1					0	1
沖縄		1					1					0	1
合計	26	5	5	2	0	1	39	13	3	2	0	18	57
17 年度	40	4	11			2	57	18	3	1		22	79
16 年度	37	3	14	4	1	3	62	18	3	2	2	25	87
15 年度	22	6	14		1	2	44	12	3		3	18	63

注１：昨年度までのデータは最終値、今年度のものは現時点値である。
注２：中学・高校共通採用の場合（東京都等）は中学校としてカウントした。